

(提言) 蹄病を理解し、治療する

阿部紀次

彦根市家畜診療所 (〒811-5732 長崎県彦根市芦辺町国分東触678-6)

(2017年10月10日受付・2017年10月18日受理)

要 約 一般的に、乳牛の跛行対策はすなわち蹄の健康管理であり、護蹄管理あるいは蹄管理と呼ぶ。この理由は、乳牛の跛行の多くが蹄の問題からくるものだからである。そして、蹄管理の基本は Lameness : Prevention, Detection and Treatment, すなわち予防し、発見し、治療することである。これがルーチンに行われてこそ、いわゆる蹄管理のハードヘルスが成り立つと言える。そのルーチンの成立を揺るがすものは何かを考えてみたい。

——キーワード：乳牛，蹄管理，予防，発見，治療

背景

乳牛における跛行のほとんどが蹄病であり、そのほとんどで後肢外側蹄の障害が関与しているとの認識から、「跛行＝蹄病」となっている。しかしながら、肉牛を含めた跛行について言えば、蹄病も上部運動器疾患も対策すべき重要疾病であることから、跛行対策は、蹄病を理解すると同時に、跛行全般を理解する必要もある。実務としては、乳牛、肉牛にかかわらず跛行診断は治療前に必ず行いたい、すでにその前に柙に入っていれば、乳牛では、わざわざもう一度出して跛行診断を行う事は通常しない。なぜなら入柙こそ大変な作業であることを農家も獣医師も良く知っているからである。一方肉牛では、跛行に対しての蹄病の割合が乳牛ほど多くないことや、鼻環による制御が効くことから、大抵の症例で跛行診断できる。ところが肉牛では、その後の挙肢が大変であることから、挙肢検査をせずに抗生物質やNSAIDs（非ステロイド性消炎鎮痛薬）の投与がなされる傾向が無きにしても非ずではないかと筆者は推測している。

他方でNOSAI制度の上では「蹄病検査 (B203/A24)」が与えられるようになった。これは、どんな跛行であれ、挙肢検査と維持削蹄程度は行う体制ができたと思えた。また、「蹄病手術 (B816/A83)」、「蹄病処置1肢1回目 (B530/A50)」、「テーピング併用1肢増点 (B32/A32)」といった蹄病に関する処置点数で十分と感じる面もありながら、それで間に合わない消耗品をどのように吸収すればよいのか…獣医師の中でジレンマがあるように聞くことがあるが、筆者としては、まず牛の病気が

理想的な形で治ることを意図したい。

筆者が駆け出しのころ、「牛が入柙して、挙肢されるまでは農家の仕事であり、そこまでの点数は入っていないのだ。」と言い放つ先輩がおられた。そのころは今ほど跛行牛がいなかったからか、さほど問題にもならなかったが、今ではどうなのであろうか…いずれにせよ、農場からは今でも「獣医さんは蹄病治療を進んでやってくれようとしなない。」との言葉を聞くことは多い。

そこで考えて頂きたい、

もしも蹄病治療を進んでやらないとどうなるだろうか…

◎趾皮膚炎 (DD) の病変から排菌し、拡散するのではないか。

◎角質病変 (蹄角質形成不全: CHD) の病体は悪化するのではないか。

筆者の知るところでは、乳牛においては大方の診療所で「急患ではない扱い」、要するに「日没以降および土日には対応しない」となっているようだ。筆者の前職である(株)トータルハードマネジメントサービスでは、夕方見つけられた症例はその日のうちにヘッドライトの灯りで治療したし、重度症例 (跛行スコア3～4では土日を問わず治療した。筆者現職の和牛地帯でも同様に「準急患扱い」とでも言おうか、土日も対応する。このように準急患扱いで、病状の悪化・拡散を食い止めることでハードヘルスがようやく成り立つのではないだろうか。

予防の柱ともいえる「蹄浴」についても、Döpferは、M2の牛は治療すべきであって、蹄浴を通すべきではな

いと述べている。蹄浴を治療的効果を求めると、その期待は裏切られる。そればかりか蔓延を引き起こす危険性すらあろう。結果として農家は蹄浴をしなくなる。この場合、獣医師の指導として治療目的とするべきではないことを告げていたかどうかと、症例の治療をルーチンとして行っていたかどうかが問題である。逆に、ルーチンな治療がなされていなければ農家とのコミュニケーションも計れないのである。

治療に必要なもの

◎蹄病に対する知識（削蹄に関する知識および治療学を含む）

◎牛の取り回し

◎使いやすい杵場

◎よく切れる蹄刀

◎蹄病治療をルーチンに行う体制

最後の「体制」とは、個人の問題と診療所の問題を含んでいる。

具体的に言えば、治療依頼が来れば「了解しました！」と、即言えるかどうかである。そう考えると、特に、杵場と道具の問題がある。使い勝手の良い杵場があつて、苦勞が少なければ腰も軽くなるというもの。それから、切れる刃物についても、その砥ぎ方、使い方もまだ未開の領域のように筆者は感じている。

最後に、ハードヘルスにおける早期発見早期治療の概念を具体化するとすれば、1頭の治療の後に「他に跛行牛はいませんか？」と問う事であろう（もちろん問うだけではない）。

(Proposal) Understand and Treat the Lameness.

Noritsugu Abe

Iki Veterinary Clinical Center

Summary Generally, the method for lameness of a dairy cow is called foot care management. This is because many of lameness of a dairy cow is what comes from the problem of a hoof (digit). And the foundations of foot care management are "Lameness: Prevention and Detection and Treatment".

Just by performing these to a routine, it can be said that what is called the herd health of foot care management is realized.

This time, let's consider about what shakes formation of the routine of herd health of lameness.

—Key Words : lameness, prevention, detection, treatment